

## ラゲール陪多項式

直交多項式であるラゲール陪多項式をロドリゲスの公式から導出します。ラゲール陪方程式からも求めています。ガンマ関数が出てきますが、表記として使っている程度です。

微分からラゲール多項式を作ります。 $f(x)g(x)$  を微分すると

$$\frac{d}{dx}f(x)g(x) = \frac{df}{dx}g + f\frac{dg}{dx}$$

例えば、 $f$  を  $x^3$  とすると

$$\frac{d}{dx}(x^3g) = 3x^2g + x^3\frac{dg}{dx}$$

$$\frac{d^2}{dx^2}(x^3g) = 6xg + 6x^2\frac{dg}{dx} + x^3\frac{d^2g}{dx^2}$$

$$\frac{d^3}{dx^3}(x^3g) = 6g + 18x\frac{dg}{dx} + 9x^2\frac{d^2g}{dx^2} + x^3\frac{d^3g}{dx^3}$$

3回微分することで  $x^0$  から  $x^3$  までを含んだ形になり、後は  $g$  の部分がなくなれば3次多項式にできます。というわけで、微分しても  $x$  が新しく出てこないように  $g$  を指数関数にすれば

$$e^x \frac{d^3}{dx^3}(x^3e^{-x}) = e^x(6e^{-x} - 18xe^{-x} + 9x^2e^{-x} - x^3e^{-x}) = 6 - 18x + 9x^2 - x^3$$

とでき、3次多項式になります。なので、 $x^n$  として  $n$  回微分にすれば  $n$  次多項式が作れます。そして、 $x^n$  を  $n$  回微分したときに出てくる  $n!$  で割って

$$L_n = \frac{e^x}{n!} \frac{d^n}{dx^n}(x^n e^{-x})$$

としたのがラゲール多項式 (Laguerre polynomial) で、これはラゲール多項式のロドリゲスの公式です。そして、同じように考えると、実数  $\alpha$  によって  $x^{n+\alpha}$  としても  $x^\alpha$  が最後に残るだけなので

$$L_n^\alpha = \frac{x^{-\alpha} e^x}{n!} \frac{d^n}{dx^n}(x^{n+\alpha} e^{-x}) \quad (1)$$

としても  $n$  次多項式になり ( $L_n^\alpha$  の  $\alpha$  は  $\alpha$  乗でなく区別の添え字)、 $\alpha > -1$  のときラゲール陪多項式 (associated Laguerre polynomial, generalized Laguerre polynomial) と呼ばれます。(1) はラゲール陪多項式でのロドリゲスの公式です。いくつか求めると

$$L_0^\alpha = x^{-\alpha} e^x x^\alpha e^{-x} = 1$$

$$L_1^\alpha = x^{-\alpha} e^x \frac{d}{dx}(x^{1+\alpha} e^{-x}) = x^{-\alpha} e^x((1+\alpha)x^\alpha e^{-x} - x^{1+\alpha} e^{-x}) = 1 + \alpha - x$$

$$L_2^\alpha = \frac{x^{-\alpha} e^x}{2!} \frac{d^2}{dx^2}(x^{2+\alpha} e^{-x}) = \frac{1}{2!}((2+\alpha)(1+\alpha) - 2(2+\alpha)x + x^2)$$

ラゲール陪多項式で  $\alpha = 0$  としたのがラゲール多項式です。ただし、ラゲール陪多項式をラゲール多項式と呼んでいることもあります。

ラゲール陪多項式を和の形で与えます。まず、ライプニッツ則

$$\frac{d^n}{dx^n}(f(x)g(x)) = \sum_{k=0}^n \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{d^k f}{dx^k} \frac{d^{n-k} g}{dx^{n-k}}$$

から

$$\begin{aligned} \frac{d^n}{dx^n}(x^{n+\alpha}e^{-x}) &= \sum_{k=0}^n \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{d^{n-k} x^{n+\alpha}}{dx^{n-k}} \frac{d^k e^{-x}}{dx^k} \\ &= \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{n!}{k!(n-k)!} (n+\alpha)(n+\alpha-1)\cdots(\alpha+k+1)x^{\alpha+k}e^{-x} \end{aligned}$$

ガンマ関数  $\Gamma$  は実数  $z$  に対して

$$\Gamma(z+1) = z\Gamma(z)$$

となっていることから

$$(n+\alpha)(n+\alpha-1)\cdots(\alpha+k+1) = \frac{(n+\alpha)(n+\alpha-1)\cdots \times 1}{(\alpha+k)(\alpha+k-1)\cdots \times 1} = \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)}$$

と書けるので

$$\frac{d^n}{dx^n}(x^{n+\alpha}e^{-x}) = x^\alpha e^{-x} \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k$$

よって

$$L_n^\alpha(x) = \frac{x^{-\alpha}e^x}{n!} x^\alpha e^{-x} \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k = \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{1}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k$$

これによってラゲール陪多項式の和の形が定義されています。 $\alpha = 0$  ではガンマ関数から実数がなくなるために階乗で書けて

$$L_n(x) = \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{1}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+1)}{\Gamma(k+1)} x^k = \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{n!}{(k!)^2(n-k)!} x^k$$

これがラゲール多項式の和の形を与えます。これからラゲール多項式をいくつか求めると

$$L_0 = 1$$

$$L_1 = x^0 + (-1)x = -x + 1$$

$$L_2 = \frac{2!}{2!}x^0 + (-1)\frac{2!}{(2-1)!}x + \frac{2!}{(2!)^2}x^2 = \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1 = \frac{1}{2}(x^2 - 4x + 2)$$

$$L_3 = \frac{3!}{3!}x^0 - \frac{3!}{(3-1)!}x + \frac{3!}{(2!)^2(3-2)!}x^2 - \frac{3!}{(3!)^2}x^3 = -\frac{1}{6}x^3 + \frac{3}{2}x^2 - 3x + 1 = \frac{1}{3!}(-x^3 + 9x^2 - 18x + 6)$$

ラゲール陪多項式の直交関係を与えます。部分積分でうまくいこと  $n \neq m$  のとき 0 にしたいので、ロドリゲスの公式での余計な  $x^{-\alpha}e^x$  を消すようにウェイト関数を与えて

$$\int dx L_n^\alpha(x) L_m^\alpha(x) x^\alpha e^{-x}$$

とします。そうすると

$$\begin{aligned} \int dx L_n^\alpha(x) L_m^\alpha(x) x^\alpha e^{-x} &= \frac{1}{m!} \int dx L_n^\alpha(x) \frac{d^{m-1}}{dx^{m-1}} \frac{d}{dx} (x^{m+\alpha} e^{-x}) \\ &= \frac{1}{m!} [L_n^\alpha(x) x^{m+\alpha} e^{-x}] - \frac{1}{m!} \int dx \frac{dL_n^\alpha}{dx} \frac{d^{m-1}}{dx^{m-1}} (x^{m+\alpha} e^{-x}) \end{aligned}$$

第 1 項は消えるようにしたいので、積分範囲を 0 から  $\infty$  に取ることにして、部分積分をくり返せば

$$\begin{aligned} \int_0^\infty dx L_n^\alpha(x) L_m^\alpha(x) x^\alpha e^{-x} &= \frac{(-1)}{m!} \int dx \frac{dL_n^\alpha}{dx} \frac{d^{m-1}}{dx^{m-1}} (x^{m+\alpha} e^{-x}) \\ &= \frac{(-1)^m}{m!} \int dx \frac{d^m L_n^\alpha}{dx^m} (x^{m+\alpha} e^{-x}) \end{aligned}$$

$L_n^\alpha$  は  $x^n$  までの多項式なので  $m > n$  なら微分は 0 になります。この手順では  $L_n^\alpha, L_m^\alpha$  のどちらを微分するかは任意なので、 $n \neq m$  のとき 0 になります。 $n = m$  のときは  $x^n$  の項の係数が

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{1}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k \Rightarrow (-1)^n \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{n! \Gamma(n+\alpha+1)} x^n = \frac{(-1)^n}{n!} x^n$$

なので、 $L_n^\alpha$  を  $n$  回微分したとき

$$\frac{d^n L_n^\alpha}{dx^n} = \frac{(-1)^n}{n!} n! = (-1)^n$$

となることから

$$\begin{aligned} \int_0^\infty dx L_n^\alpha(x) L_n^\alpha(x) x^\alpha e^{-x} &= \frac{(-1)^n}{n!} \int_0^\infty dx \frac{d^n L_n^\alpha}{dx^n} x^{n+\alpha} e^{-x} \\ &= \frac{1}{n!} \int_0^\infty dx x^{n+\alpha} e^{-x} \\ &= \frac{1}{n!} \Gamma(n+\alpha+1) \end{aligned}$$

まとめると、ラゲール陪多項式の直交関係は

$$\int_0^{\infty} dx L_n^{\alpha}(x) L_m^{\alpha}(x) x^{\alpha} e^{-x} = \frac{(n+\alpha)!}{n!} \delta_{nm}$$

と与えられ、これによってラゲール陪多項式は直交多項式となっています。また、ラゲール多項式の直交関係は

$$\int_0^{\infty} dx L_n(x) L_m(x) e^{-x} = \delta_{nm}$$

となります。

ラゲール陪多項式は積分形もありますが、ベッセル関数が必要になって面倒なので省きます。結果だけ示せば、 $J_{\nu}(x)$  を第一種ベッセル関数として

$$L_n^{\alpha}(x) = \frac{x^{-\alpha/2} e^x}{n!} \int_0^{\infty} dt t^{n+\alpha/2} e^{-t} J_{\alpha}(2\sqrt{xt})$$

と与えられます。

母関数を求めます。母関数  $G$  を

$$G_{\alpha}(x, r) = \sum_{n=0}^{\infty} g_n L_n^{\alpha}(x) r^n$$

とします。まず、ラゲール多項式での母関数から求めます。ラゲール多項式の和の形を見ると

$$L_n(x) = \sum_{k=0}^n \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{(-1)^k}{k!} x^k$$

となっているので、母関数には指数関数が含まれていると仮定し

$$G(x, r) = h(r) e^{-f(r)x}$$

展開すれば

$$G(x, r) = h(r) e^{-f(r)x} = h(r) \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(-1)^k}{k!} f^k(r) x^k$$

$h(r) f^k(r)$  は  $r$  のべき級数で展開できるとして

$$h(r) f^k(r) = \sum_{m=0}^{\infty} a_m r^{m+k}$$

と置いてみます。そうすると、級数の積から

$$G(x, r) = \sum_{m=0}^{\infty} \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(-1)^k}{k!} a_m x^k r^{m+k} = \sum_{n=0}^{\infty} \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k}{k!} a_{n-k} x^k r^n = \sum_{n=0}^{\infty} L_n(x) r^n \quad (n = m + k) \quad (2)$$

なので

$$a_{n-k} = \frac{n!}{k!(n-k)!} \Rightarrow a_m = \frac{1}{m!} \frac{(k+m)!}{k!}$$

この展開係数は、 $1/(1-r)^k$  の  $|r| < 1$  での展開

$$\frac{1}{(1-r)^k} = 1 + kr + \frac{1}{2!} k(k+1)r^2 + \frac{1}{3!} k(k+1)(k+2)r^3 + \dots = \sum_{m=0}^{\infty} \frac{1}{m!} \frac{(k+m-1)!}{(k-1)!} r^m$$

から

$$\frac{1}{(1-r)^{k+1}} = \sum_{m=0}^{\infty} \frac{1}{m!} \frac{(k+m)!}{k!} r^m \quad (3)$$

と同じになっているのが分かります。よって

$$h(r)f^k(r) = \sum_{m=0}^{\infty} a_m r^{m+k} = \frac{r^k}{(1-r)^{k+1}} = \frac{1}{(1-r)} \left(\frac{r}{1-r}\right)^k$$

となるので、ラゲール多項式の母関数は

$$G(x, r) = \frac{1}{1-r} \exp\left[-\frac{xr}{1-r}\right]$$

となります。

これをラゲール陪多項式の母関数に変更します。まず、ラゲール陪多項式の  $\alpha$  を負でない整数とします。(2) と同じようにすると

$$G_{\alpha}(x, r) = \sum_{m=0}^{\infty} \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(-1)^k}{k!} a_m x^k r^{m+k} = \sum_{n=0}^{\infty} \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k}{k!} a_{n-k} x^k r^n = \sum_{n=0}^{\infty} L_n^{\alpha}(x) r^n$$

ラゲール多項式とラゲール陪多項式の和の形は

$$L_n(x) = \sum_{k=0}^n \frac{1}{(n-k)!} \frac{n!}{k!} \frac{(-1)^k}{k!} x^k, \quad L_n^{\alpha} = \sum_{k=0}^n \frac{1}{(n-k)!} \frac{(n+\alpha)!}{(k+\alpha)!} \frac{(-1)^k}{k!} x^k$$

これらの比較と (3) から、 $1/(1-r)^{k+1}$  を

$$\frac{1}{(1-r)^{k+\alpha+1}} = \sum_{m=0}^{\infty} \frac{1}{m!} \frac{(k+m+\alpha)!}{(k+\alpha)!} r^m \Rightarrow \frac{1}{m!} \frac{(k+m+\alpha)!}{(k+\alpha)!} = \frac{1}{(n-k)! (k+\alpha)!} \quad (n = m+k)$$

と変更すればラゲール陪多項式の形にできるのが分かるので、 $\alpha$  が負でない整数のときラゲール陪多項式の母関数は

$$G_{\alpha}(x, r) = \frac{1}{(1-r)^{\alpha+1}} \exp\left[-\frac{xr}{1-r}\right] \quad (|r| < 1) \quad (4)$$

となります。

次に、 $\alpha > -1$  の実数でもこれがラゲール陪多項式の母関数になっていることを示します。 $z_0$  で正則（解析的）でない関数  $f(z)$  は  $z_0$  周りのローラン展開として

$$F(z) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} b_n (z - z_0)^n, \quad b_n = \frac{1}{2\pi i} \int_C \frac{F(w)}{(w - z_0)^{n+1}} dw$$

と書けることを利用します。 $C$  は  $z_0$  を囲む反時計回りの閉曲線です。これを使って (4) を

$$\frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(x) r^n, \quad b_n = \frac{1}{2\pi i} \int_C dr \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} \frac{1}{r^{n+1}} \quad (|r| < 1) \quad (5)$$

と展開します。母関数は  $r, r^2, r^3, \dots$  のべき級数なので、 $r^{-n}$  となる主要部は省いています。 $C$  は  $r = 0$  を囲む  $|r| < 1$  の円とします。 $b_n$  は

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{2\pi i} \int_C dr \frac{1}{(1-r)^2} \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha-1}} \frac{1}{r^{n+1}} \\ &= \frac{1}{2\pi i} \int_{C'} du \frac{1}{x} \frac{u^{\alpha-1}}{x^{\alpha-1}} e^{-u+x} \frac{u^{n+1}}{(u-x)^{n+1}} \quad \left(u = \frac{x}{1-r}, r = -\frac{x-u}{u}, du = \frac{xdr}{(1-r)^2}, -u+x = -\frac{xr}{1-r}\right) \\ &= \frac{x^{-\alpha} e^x}{2\pi i} \int_{C'} du \frac{u^{n+\alpha} e^{-u}}{(u-x)^{n+1}} \end{aligned}$$

$u$  は  $r = 1$  を除いて連続で、 $r = 0$  のとき  $u = x$  なので、 $C'$  は  $u = x$  を囲む閉曲線です。積分はグルサの定理（もしくは  $n+1$  位での留数定理）

$$\left. \frac{d^n F}{dz^n} \right|_{z=a} = \frac{n!}{2\pi i} \int_C dz \frac{F(z)}{(z-a)^{n+1}}$$

から

$$b_n(x) = \frac{x^{-\alpha} e^x}{2\pi i} \int_{C'} du \frac{u^{n+\alpha} e^{-u}}{(u-x)^{n+1}} = \frac{x^{-\alpha} e^x}{n!} \frac{d^n}{du^n} (u^{n+\alpha} e^{-u}) \Big|_{u=x} = \frac{x^{-\alpha} e^x}{n!} \frac{d^n}{dx^n} (x^{n+\alpha} e^{-x}) = L_n^{\alpha}(x)$$

よって、 $b_n$  による展開 (5) は

$$\frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} = \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha(x)r^n$$

となるので、(4) は  $\alpha > -1$  でも母関数です。

ラゲール陪多項式の漸化式と微分方程式を求めます。母関数を  $r$  で微分してみると

$$\begin{aligned} \frac{\partial G}{\partial r} &= \left( \frac{\partial}{\partial r} \frac{-xr}{1-r} \right) \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} + e^{-xr/(1-r)} \frac{\partial}{\partial r} \frac{1}{(1-r)^{\alpha+1}} \\ &= e^{-xr/(1-r)} \left( \left( \frac{-x}{1-r} + \frac{-xr}{(1-r)^2} \right) \frac{1}{(1-r)^{\alpha+1}} + \frac{\alpha+1}{(1-r)^{\alpha+2}} \right) \\ &= \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} \left( \frac{-x}{1-r} + \frac{-xr}{(1-r)^2} + \frac{\alpha+1}{1-r} \right) \\ &= \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} \frac{(\alpha+1)(1-r) - x}{(1-r)^2} \\ &= \frac{(\alpha+1)(1-r) - x}{(1-r)^2} G \end{aligned}$$

なので

$$(1-r)^2 \frac{\partial G}{\partial r} - ((\alpha+1)(1-r) - x)G = 0$$

これは

$$\begin{aligned} 0 &= (1-r)^2 \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} - ((\alpha+1)(1-r) - x) \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^n \\ &= (1-2r+r^2) \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} - (\alpha+1-x - (\alpha+1)r) \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} - 2r \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} + r^2 \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} - (\alpha+1-x) \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^n + (\alpha+1)r \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n-1} - 2 \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^n - (\alpha+1-x) \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^n + \sum_{n=0}^{\infty} nL_n^\alpha r^{n+1} + (\alpha+1) \sum_{n=0}^{\infty} L_n^\alpha r^{n+1} \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} (n+1)L_{n+1}^\alpha r^n + \sum_{n=0}^{\infty} (x-\alpha-2n-1)L_n^\alpha r^n + \sum_{n=1}^{\infty} (n-1+\alpha+1)L_{n-1}^\alpha r^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} (n+1)L_{n+1}^\alpha r^n + \sum_{n=0}^{\infty} (x-\alpha-2n-1)L_n^\alpha r^n + \sum_{n=1}^{\infty} (n+\alpha)L_{n-1}^\alpha r^n \end{aligned}$$

第1項と第2項から  $n=0$  のときを分離させれば

$$\begin{aligned}
& \sum_{n=0}^{\infty} (n+1)L_{n+1}^{\alpha} r^n + \sum_{n=0}^{\infty} (x - \alpha - 2n - 1)L_n^{\alpha} r^n + \sum_{n=1}^{\infty} (n + \alpha)L_{n-1}^{\alpha} r^n \\
&= L_1^{\alpha} + (x - \alpha - 1)L_0^{\alpha} + \sum_{n=1}^{\infty} (n+1)L_{n+1}^{\alpha} r^n + \sum_{n=1}^{\infty} (x - \alpha - 2n - 1)L_n^{\alpha} r^n + \sum_{n=1}^{\infty} (n + \alpha)L_{n-1}^{\alpha} r^n
\end{aligned}$$

となるので、 $r \neq 0$  として、漸化式が

$$\begin{aligned}
(x - \alpha - 1)L_0^{\alpha} + L_1^{\alpha} &= 0 \\
(n+1)L_{n+1}^{\alpha} + (x - \alpha - 2n - 1)L_n^{\alpha} + (n + \alpha)L_{n-1}^{\alpha} &= 0 \quad (n = 1, 2, \dots)
\end{aligned} \tag{6}$$

と求まります。

今度は  $x$  で偏微分すると

$$\frac{\partial G}{\partial x} = \left( \frac{\partial}{\partial x} \frac{-xr}{1-r} \right) \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+1}} = -r \frac{e^{-xr/(1-r)}}{(1-r)^{\alpha+2}} = \frac{r}{1-r} G$$

なので

$$(1-r) \frac{\partial G}{\partial x} + rG = 0$$

これは

$$\begin{aligned}
(1-r) \sum_{n=0}^{\infty} \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} r^n + r \sum_{n=0}^{\infty} L_n^{\alpha} r^n &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} r^n - \sum_{n=0}^{\infty} \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} r^{n+1} + \sum_{n=0}^{\infty} L_n^{\alpha} r^{n+1} \\
&= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} r^n - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{dL_{n-1}^{\alpha}}{dx} r^n + \sum_{n=1}^{\infty} L_{n-1}^{\alpha} r^n \\
&= \sum_{n=1}^{\infty} \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} r^n - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{dL_{n-1}^{\alpha}}{dx} r^n + \sum_{n=1}^{\infty} L_{n-1}^{\alpha} r^n \quad (L_0^{\alpha} = 1)
\end{aligned}$$

なので

$$\frac{dL_n^{\alpha}}{dx} - \frac{dL_{n-1}^{\alpha}}{dx} + L_{n-1}^{\alpha} = 0 \quad (n = 1, 2, \dots) \tag{7}$$

この  $L_{n-1}^{\alpha}$  の微分の項を消します。まず、 $L_{n-1}^{\alpha}$  を消すために、(7) に  $n + \alpha$  をかけて (6) を引けば

$$(n + \alpha) \frac{dL_n^{\alpha}}{dx} - (n + \alpha) \frac{dL_{n-1}^{\alpha}}{dx} - (n + 1)L_{n+1}^{\alpha} - (x - \alpha - 2n - 1)L_n^{\alpha} = 0 \tag{8}$$

(6) を  $x$  で微分すると

$$(n+1)\frac{dL_{n+1}^\alpha}{dx} + L_n^\alpha + (x-\alpha-2n-1)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + (n+\alpha)\frac{dL_{n-1}^\alpha}{dx} = 0$$

$$(n+\alpha)\frac{dL_{n-1}^\alpha}{dx} = (n+1)\frac{dL_{n+1}^\alpha}{dx} + L_n^\alpha + (x-\alpha-2n-1)\frac{dL_n^\alpha}{dx}$$

これを (8) に入れて

$$\begin{aligned} (n+\alpha)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + (n+1)\frac{dL_{n+1}^\alpha}{dx} + (x-\alpha-2n-1)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + L_n^\alpha - (n+1)L_{n+1}^\alpha - (x-\alpha-2n-1)L_n^\alpha \\ = (n+1)\frac{dL_{n+1}^\alpha}{dx} + (x-n-1)\frac{dL_n^\alpha}{dx} - (n+1)L_{n+1}^\alpha - (x-\alpha-2n-2)L_n^\alpha \end{aligned}$$

$n$  を  $n-1$  と置き換えて、(7) を入れると

$$\begin{aligned} n\frac{dL_n^\alpha}{dx} + (x-n)\frac{dL_{n-1}^\alpha}{dx} - nL_n^\alpha - (x-\alpha-2n)L_{n-1}^\alpha = n\frac{dL_n^\alpha}{dx} + (x-n)\left(\frac{dL_n^\alpha}{dx} + L_{n-1}^\alpha\right) - nL_n^\alpha - (x-\alpha-2n)L_{n-1}^\alpha \\ = x\frac{dL_n^\alpha}{dx} - nL_n^\alpha + (\alpha+n)L_{n-1}^\alpha \end{aligned}$$

なので、 $L_n^\alpha$  の微分を含めた漸化式が

$$x\frac{dL_n^\alpha}{dx} = nL_n^\alpha - (n+\alpha)L_{n-1}^\alpha \quad (n=1, 2, \dots) \quad (9)$$

と求まります。

今度は微分方程式を求めます。(9) を (7) に入れます

$$(n+\alpha)\frac{dL_{n-1}^\alpha}{dx} = (n+\alpha)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + (n+\alpha)L_{n-1}^\alpha = (n+\alpha)\frac{dL_n^\alpha}{dx} - x\frac{dL_n^\alpha}{dx} + nL_n^\alpha$$

(9) を  $x$  で微分して、これを入れれば

$$\begin{aligned} \frac{dL_n^\alpha}{dx} + x\frac{d^2L_n^\alpha}{dx^2} &= n\frac{dL_n^\alpha}{dx} - (n+\alpha)\frac{dL_{n-1}^\alpha}{dx} \\ &= n\frac{dL_n^\alpha}{dx} - (n+\alpha)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + x\frac{dL_n^\alpha}{dx} - nL_n^\alpha \\ x\frac{d^2L_n^\alpha}{dx^2} + (\alpha+1-x)\frac{dL_n^\alpha}{dx} + nL_n^\alpha &= 0 \quad (n=0, 1, 2, \dots) \end{aligned}$$

よって、ラゲール陪多項式は 2 階微分方程式

$$x\frac{d^2u}{dx^2} + (\alpha+1-x)\frac{du}{dx} + nu = 0 \quad (10)$$

に対する解となっています。この形の微分方程式をラゲール陪方程式 (associated Laguerre equation) と言い、 $\alpha=0$  での

$$x \frac{d^2 y}{dx^2} + (1-x) \frac{dy}{dx} + ny = 0 \quad (11)$$

ではラゲール方程式と呼ばれ、ラゲール多項式が解です。

(10) と (11) から、 $\alpha$  が負でない整数のときのラゲール多項式とラゲール陪多項式の関係が分かります。 $m$  回の  $x$  微分を  $f^{(m)}$  と書きます。ラゲール多項式によるラゲール方程式は

$$xL_n^{(2)} + (1-x)L_n^{(1)} + nL_n = 0$$

これを

$$xL_{n+m}^{(2)} + (1-x)L_{n+m}^{(1)} + (n+m)L_{n+m} = 0$$

として、 $m$  回微分すると、ライプニッツ則から

$$\frac{d^m}{dx^m}(xy^{(2)}) = \sum_{k=0}^m \frac{m!}{k!(m-k)!} \frac{d^k x}{dx^k} \frac{d^{m-k} y^{(2)}}{dx^{m-k}} = \frac{m!}{m!} x \frac{d^m y^{(2)}}{dx^m} + \frac{m!}{(m-1)!} \frac{dx}{dx} \frac{d^{m-1} y^{(2)}}{dx^{m-1}} = xy^{(m+2)} + my^{(m+1)}$$

$$\frac{d^m}{dx^m}(xy^{(1)}) = xy^{(m+1)} + my^{(m)}$$

となるので、 $L_{n+m}$  を  $y$  として

$$\begin{aligned} \frac{d^m}{dx^m}(xy^{(2)}) + (1-x)y^{(1)} + (n+m)y &= xy^{(m+2)} + my^{(m+1)} + y^{(m+1)} - xy^{(m+1)} - my^{(m)} + (n+m)y^{(m)} \\ &= xy^{(m+2)} + (m+1-x)y^{(m+1)} + ny^{(m)} \\ &= x \frac{d^2}{dx^2} y^{(m)} + (m+1-x) \frac{d}{dx} y^{(m)} + ny^{(m)} \end{aligned}$$

これはラゲール陪方程式なので、その解は  $L_n^m$  です。よって、ラゲール陪多項式とラゲール多項式は

$$L_n^m = (-1)^m \frac{d^m}{dx^m} L_{n+m}$$

となっています。 $(-1)^m$  は定義に合わせるために加えています。

まとめると

- ロドリゲスの公式

$$L_n^\alpha(x) = \frac{x^{-\alpha} e^x}{n!} \frac{d^n}{dx^n} (x^{n+\alpha} e^{-x})$$

- 和の形

$$L_n^\alpha(x) = \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{1}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k$$

- 積分形 ( $J_\alpha$  は第一種ベッセル関数)

$$L_n^\alpha(x) = \frac{x^{-\alpha/2} e^x}{n!} \int_0^\infty dt t^{n+\alpha/2} e^{-t} J_\alpha(2\sqrt{xt})$$

- 直交関係

$$\int_0^\infty dx L_n^\alpha(x) L_m^\alpha(x) x^\alpha e^{-x} = \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{n!} \delta_{nm}$$

- 母関数

$$G_\alpha(x, r) = \frac{1}{(1-r)^{\alpha+1}} \exp\left[-\frac{xr}{1-r}\right]$$

- 漸化式 ( $n = 1, 2, \dots$ )

$$(n+1)L_{n+1}^\alpha = (\alpha + 2n + 1 - x)L_n^\alpha - (n+\alpha)L_{n-1}^\alpha$$

$$x \frac{dL_n^\alpha}{dx} = nL_n^\alpha - (n+\alpha)L_{n-1}^\alpha$$

- 微分方程式 (ラゲール陪方程式)

$$\frac{d^2 L_n^\alpha}{dx^2} + (\alpha + 1 - x) \frac{dL_n^\alpha}{dx} + nL_n^\alpha = 0$$

- ラゲール陪多項式とラゲール多項式の関係 ( $m$  は負でない整数)

$$L_n^m = (-1)^m \frac{d^m}{dx^m} L_{n+m}$$

$\alpha = 0$  にすればラゲール多項式の関係になります。

ラゲール陪方程式の級数解としてラゲール陪多項式が出てくることを見ます。ラゲール陪多項式は  $x = 0$  が確定特異点なので、フロベニウス級数を使って

$$y(x) = x^s \sum_{k=0}^{\infty} c_k x^k$$

として、これから

$$(\alpha + 1 - x) \frac{dy}{dx} = (\alpha + 1 - x) \sum_{k=0}^{\infty} (s+k) c_k x^{s+k-1} = (\alpha + 1) \sum_{k=0}^{\infty} (s+k) c_k x^{s+k-1} - \sum_{k=0}^{\infty} (s+k) c_k x^{s+k}$$

$$x \frac{d^2 y}{dx^2} = x \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)(s+k-1) c_k x^{s+k-2} = \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)(s+k-1) c_k x^{s+k-1}$$

となるので、ラゲール陪方程式は

$$\sum_{k=0}^{\infty} (s+k)(s+k-1)c_k x^{s+k-1} + (\alpha+1) \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k-1} - \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k} + n \sum_{k=0}^{\infty} c_k x^{s+k} = 0$$

$x^{s-1}$  の項を分離すると、第 1 項と第 2 項から

$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)(s+k-1)c_k x^{s+k-1} &= s(s-1)c_0 x^{s-1} + \sum_{k=1}^{\infty} (s+k)(s+k-1)c_k x^{s+k-1} \\ \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k-1} &= (\alpha+1)s c_0 x^{s-1} + (\alpha+1) \sum_{k=1}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k-1} \end{aligned}$$

となるので

$$\begin{aligned} 0 &= (s(s-1) + (\alpha+1)s)c_0 x^{s-1} \\ &+ \sum_{k=1}^{\infty} (s+k)(s+k-1)c_k x^{s+k-1} + (\alpha+1) \sum_{k=1}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k-1} - \sum_{k=0}^{\infty} (s+k)c_k x^{s+k} + n \sum_{k=0}^{\infty} c_k x^{s+k} \end{aligned}$$

これから、 $c_0$  の項による決定方程式は

$$s(s-1) + (\alpha+1)s = 0$$

なので、 $s = 0, -\alpha$  です。ラグール陪多項式は  $\alpha = 0$  でラグール多項式になるので、 $s = 0$  の解を求めます。そうすると、漸化式は

$$\begin{aligned} 0 &= \sum_{k=1}^{\infty} k(k-1)c_k x^{k-1} + (\alpha+1) \sum_{k=1}^{\infty} k c_k x^{k-1} - \sum_{k=0}^{\infty} k c_k x^k + n \sum_{k=0}^{\infty} c_k x^k \\ &= \sum_{k=0}^{\infty} (k+1)k c_{k+1} x^k + (\alpha+1) \sum_{k=0}^{\infty} (k+1)c_{k+1} x^k - \sum_{k=0}^{\infty} k c_k x^k + n \sum_{k=0}^{\infty} c_k x^k \\ &= \sum_{k=0}^{\infty} (((k+1)k + (\alpha+1)(k+1))c_{k+1} - (k-n)c_k) x^k \end{aligned}$$

から

$$c_{k+1} = \frac{k-n}{(k+1)(k+\alpha+1)} c_k$$

と求められます。このため、 $k = n$  で級数は止まり、多項式になるのが分かります。漸化式から

$$\begin{aligned} c_1 &= (-1) \frac{n}{\alpha+1} c_0 \\ c_2 &= \frac{1-n}{2(\alpha+2)} c_1 = (-1)^2 \frac{n(n-1)}{2(\alpha+2)(\alpha+1)} c_0 \\ c_3 &= \frac{2-n}{3(\alpha+3)} c_2 = (-1)^3 \frac{1}{3 \times 2} \frac{n(n-1)(n-2)}{(\alpha+3)(\alpha+2)(\alpha+1)} c_0 \end{aligned}$$

と続くので

$$c_k = (-1)^k \frac{1}{k!} \frac{n(n-1)\cdots(n-k+1)}{(\alpha+k)(\alpha+k-1)\cdots(\alpha+1)} c_0$$

階乗とガンマ関数を使うと

$$n(n-1)\cdots(n-k+1) = \frac{n!}{(n-k)!}$$
$$(\alpha+k)(\alpha+k-1)\cdots(\alpha+1) = \frac{\Gamma(\alpha+k+1)}{\Gamma(\alpha+1)}$$

と書けるので

$$c_k = \frac{(-1)^k}{k!} \frac{n!}{(n-k)!} \frac{\Gamma(\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} c_0$$

よって

$$y(x) = \sum_{k=0}^n c_n x^n = c_0 \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{n!}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k$$

$c_0$  を

$$c_0 = \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{n!\Gamma(\alpha+1)}$$

とすることで、ラゲール陪多項式が

$$u(x) = L_n^\alpha(x) = \sum_{k=0}^n (-1)^k \frac{1}{k!(n-k)!} \frac{\Gamma(n+\alpha+1)}{\Gamma(k+\alpha+1)} x^k$$

と出てきます。

最後に、一般化したロドリゲスの公式から導出します。 $n$  次多項式は

$$C_{(n)}(x) = \frac{1}{K_n} \frac{1}{w(x)} \frac{d^n}{dx^n} (w(x)s^n(x)) \quad (12)$$

積分範囲は  $s(a)w(a) = s(b)w(b) = 0$  となる  $a, b$  で与えられます。 $s$  を、 $c_1, c_2 > 0$  を定数として

$$s = c_2(x - c_1)$$

とします。 $C_{(1)}$  は 1 次多項式なので

$$C_{(1)} = -\frac{1}{K_1} x$$

として、(12) は

$$\begin{aligned}
 -x &= \frac{1}{w} \frac{d}{dx}(wc_2(x - c_1)) \\
 &= \frac{c_2(x - c_1)}{w} \frac{dw}{dx} + c_2 \\
 \frac{1}{w} \frac{dw}{dx} &= -\frac{c_2 + x}{c_2(x - c_1)} \\
 \log |w| &= -\frac{1}{c_2} \int dx \left( \frac{c_2}{x - c_1} + \frac{x}{x - c_1} \right) \\
 &= -\frac{1}{c_2} (c_2 \log |x - c_1| + x + c_1 \log |x - c_1|) + A \\
 &= -\frac{1}{c_2} ((c_1 + c_2) \log |x - c_1| + x) + A \\
 |w| &= \exp \left[ -\frac{c_1 + c_2}{c_2} \log |x - c_1| - \frac{1}{c_2} x + A \right] \\
 &= e^A |x - c_1|^{-(c_1 + c_2)/c_2} e^{-x/c_2} \\
 w &= A' |x - c_1|^{-(c_1 + c_2)/c_2} e^{-x/c_2} \quad (A' = \pm e^A)
 \end{aligned}$$

$C$  は任意定数です。これによる  $sw$  は、係数の定数を省いて

$$sw = |x - c_1|^{1 - (c_1 + c_2)/c_2} e^{-x/c_2}$$

となるので、 $\alpha = -(c_1 + c_2)/c_2 > -1$  なら  $x = c_1$  で 0 になり、 $e^{-x/c_2}$  から  $x = \infty$  で 0 になります。このため、直交関係の積分範囲は  $c_1$  から  $\infty$  です。

式を簡単にするために、 $y = (x - c_1)/c_2$  とすると

$$w(y) = A' |c_2|^\alpha |y|^\alpha e^{-(y + c_1/c_2)} = Dy^\alpha e^{-y}$$

定数を  $D$  としてまとめています。これによって、定数を省いて書くと

$$C_{(n)} = y^{-\alpha} e^y \frac{d^n}{dy^n} (y^{n+\alpha} e^{-y}) \quad (\alpha > -1)$$

となるので、ラグール陪多項式になります。また、 $x = c_1$  のとき  $y = 0$ 、 $x = \infty$  のとき  $y = \infty$  なので、直交関係の積分範囲は 0 から  $\infty$  になります。